

9

News Letter

巻頭言

2022年度大会

シンポジウム総括

優秀発表賞に関して

受賞者コメント

学生参加報告

総会報告

大会終えて

ISAE2021参加報告

2022. Oct.

動物の行動と管理学会

9 News Letter

2022. Oct.

動物の行動と管理学会

巻頭言 会長挨拶

青山 真人 (宇都宮大学)

発生してから2年以上経過してもまだ続いているコロナ渦の中ですが、会員の皆様におかれましては元気でいらっしゃると思います。昨年度から会長を務めさせて頂いておられます、青山です。

コロナ渦での生活にも慣れ(あまりいいことではないかも・・・)、ワクチン接種も進んだこともあり、少しずつですが前の生活が戻りつつある気がします。今年度は、リモート参加の方々もおられましたが、3年ぶりに対面での研究発表会を開催できました。参加された役員・会員の皆様のお顔をZoom越しではなく拝見し、お声をZoom越しではなく聞くことができました。



もちろん、リモート開催にも強い利点があります(例えば、山梨裕美さんが中心になって開催して下さっているイブニングセミナー:僕は1回しか出たことないですが・・・:このセミナーは、リモートの良さを最大限に活用していますよね)。でも、やはり今回の研究発表会では、対面で得られる臨場感の大切さを実感したところでした。あらためまして、加瀬ちひろ様をはじめとする大会理事の皆様深く感謝いたします。難しい判断が迫られることもあり、「対面もリモートも」という開催は、おそらく全部リモートにした昨年度よりも大変な面もあったのかと思います。来年度は「全員対面」になり、恒例の「懇親会」(私はこれを「本番」と呼んでいます)が盛大に開催できる状態になっていることを祈っております。

シンポジウムも、興味深く拝聴させて頂きました。「動物とコンピュータのインタラクション」。私は研究分野が産業動物なので、「畜産におけるスマート農業」の話はたまに伺いますが、それとはまた異なる興味深さがありました。私ごとですが、最も興味が惹かれたのは山梨さんのチンパンジーの話で、「若い個体は映像をよく見る(操作する)けど、ある程度の年齢の個体はあまり見ない(操作しない)」という点でした。実はこの少し前に、私の研究室の学生たちと映画の話しをしている中で、私は映画鑑賞が趣味だったのですが、最近の新しい映画はほとんどみません。でも、スターウ●●ズやターミネ●●タ●や、ジュラシック●●●●など、自分が若い頃に見た映画の続編とかスピンオフだったら、映画館まで見に行く、という話しをしていました。チンパンジーの若くない個体も、昔の経験を思い出すような映像なら、積極的に見たり操作したりするんだらうか・・・? 山梨さん、いつか、試してみてください。

これは前回の会長挨拶でも述べたことですが、産業動物、伴侶動物、実験動物、展示動物、野生動物というそれぞれの「立場」の動物において、私たちの学会の重要性はまた増大してきていると実感します。アニマルウェルフェアという分野において、科学的な根拠を示し、議論をし、正しい知識を社会に提案するという、重要な役目が本学会にはあります。また、野生動物との軋轢にかかわるニュースも後を絶たず、彼らの行動学的性質をよく理解し、どう管理するのか、これを考案するのも本学会の役割です。それぞれの分野で研究、教育を行ない、情報交換を行ない、「楽しみながら」ヒトと動物はどうかかわっていくべきかを、会員はもちろん、会員ではない人たちに伝える必要があるのかと思います。

ちなみに、前回の会長挨拶の写真は、確か一昨年度に私が実際に赴いた唯一の出張のときに、宿泊するホテルで撮影した「夕食」でした。バックナンバーで確認できるかと思います。今回は、栃木県で開催されている国体を記念して、JR宇都宮駅の近くで「ささやかな」フェスに、妻と二人で訪れたときの写真です。(もちろん?) 飲食のとき以外は、マスクをしていました。気をつけつつも普段の生活を取り戻し、来年度には会員のみならず気兼ねなく「本番」で情報交換ができますように・・・!

2022年度大会

シンポジウム総括

新村 毅 (大会担当・東京農工大学)

2022年9月2日(金)に、シンポジウム「動物とコンピューターのインタラクション」をハイブリット形式にて開催しました。参加者は、全体で約100名ほどでした。このシンポジウムの趣旨としましては、IoTやICTといった技術革新に留まることなく、その先を目指していきたいという思いがありました。実際、畜産IoTは畜産学分野においてもホットピックの1つになっており、例えば、センサーを用いて生産性のみならず行動を可視化するような技術開発が精力的に行われ、ある一定の割合で成熟しているようにも見えます。では、これが完全に成熟すれば動物管理のデジタル化は完結と言えるのか?と問われれば、私はNoと答えます。と言いますのも、現在開発されている技術は、「把握」という状態に留まっており、その先にある「制御」のデジタル化は実現されておらず、したがって動物との会話のデジタル化も達成されていないと考えているからです。シンポジウムでは、アニマルコンピュータインタラクションを実現した方々に登壇頂き、小林博樹(東大)博士より「アニマルコンピュータインタラクションと野生動物装着センサネットワーク機構」について、山梨裕美(京都市動物園)・吉田信明(京都高度技術研究所)博士より「チンパンジーは映像の森を楽しむか?～動物園動物の福祉と研究におけるテクノロジー利用の可能性～」について、私・新村(農工大)より「母鶏模倣型ロボットとのインタラクションによるヒナの行動制御」について研究の紹介を頂きました。小林・山梨両博士の研究は、非常に刺激的で興味深く、これからの目指すべき1つのビジョンを示してくれたようにも感じました。講演者の皆様、活発な議論を頂いた方々、また学会関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



優秀発表賞報告

田辺 智樹 (大会担当・道総研酪農試)

優秀発表表彰は口頭発表の学生会員を対象とし、今大会では8題のエントリーがありました。昨年の完全オンライン開催から今大会はハイブリット開催での実施となり、発表者には対面での口頭発表を行っていただきました。学会発表が初めての学生さんなど不安を抱えていた学生も多かったと思いますが、どの演題もスライドや説明に工夫がなされていてとてもわかりやすい発表でした。大会参加者のうち50名前後が対面で参加してくださり、以前のような会場での活発な質疑応答もみられ、発表した学生にとっては良い経験になったのではないのでしょうか。個人的には、優秀発表賞演題はプログラムの最初だったこともあり発表中にいくつかトラブルが発生し、発表者・聴講者のみなさんにご迷惑をおかけしてしまい、十分な環境を提供できなかったことを反省しております。次回開催時にこれらの反省を踏まえて、より良い環境を提供する準備が必要だと感じました。

まだまだ不安定な世の中で次大会もどういった開催方法になるかは未定ですが、今後も多くの若手研究者に本学会で発表してもらえることを期待しています。最後に、お忙しいなか審査員を引き受けていただいた先生方にこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

厳正なる審査の結果、以下1名の方を今大会の優秀発表者として決定いたしました。

山本 誉さん(大阪大院人間科学)

「飼育ホッキョクグマ母子における産室を出てから子が12カ月齢を迎えるまでの相互交渉」

優秀発表賞 受賞コメント

山本 誉 (大阪大院人間科学)

この度、優秀発表賞をいただきました、大阪大学大学院人間科学研究科 博士後期課程1年の山本誉です。昨年に引き続き名誉ある賞をいただくことができ非常に光栄です。ありがとうございます。また、本研究に携わって下さった全ての方々に、この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。

今年度は、私にとって対面で開催される初めての学会でした。開催当日の朝、大阪から(ほぼ)始発で現地入りしたのですが、適度な緊張感・出張の高揚感・久々の早起きからくる眠気により、夢うつつの状態で雨降る中川駅を歩いたことが思い出されます。

今回発表させていただいた母子間相互交渉をもって、私が修士課程で行ったホッキョクグマ研究は一区切りとなります。現在はテーマ探しのため動物園に足を運ぶ日々が続いています。「ホッキョクグマのひと」と皆さまに覚えられている中で、今後の研究対象がどうなれ、皆さまの記憶に残るような動物園研究を続けていきたいと思っています。



学生参加報告

古谷 愛優加 (麻布大学)

2022年9月1日、2日に開催された2022年度大会に出席し、「アマミトゲネズミの日周活動性」についてポスター発表させていただきました。この研究は、麻布大学で行われている「実践的ジェネラリスト育成プログラム」の一環として参加させていただいたものでした。当時、学部1年生の意欲だけで何も分からない私を学会発表までご指導していただいた加瀬先生には感謝を申し上げます。お陰様で観察や研究の面白さ、行動学の奥深さを知りました。また研究を進める中で、共同研究していただいた埼玉県こども動物自然公園の職員の方々にも様々な協力および意見をいただき、勉強になりました。この研究は同学年の木村と取り組みました。一緒に研究を進めることにより、お互いに良い刺激になっていたと感じます。



本大会が初めての学会への参加でした。まず学会の雰囲気も分からず、学会発表が決まった時から緊張していました。同时对面とオンラインの二通りでの開催ということで、多くの方々と交流でき、最新の研究を知ることができる良い機会だと期待が高まっていました。当日のポスター発表では和やかな空気感で始まり、参加者が真剣にポスターを見つめていて想像していたよりも議論しやすいそうだと感じ、安心しました。私たちの発表にも質問してくださり、限られた時間内に伝えることに苦戦しましたが、大変楽しかったです。拙い返答を分かるまで聞いていただき、ありがとうございました。いただいた質問の中には更なる解析へと繋がるものもあり、参考になりました。今、追加の解析を進めているところです。観察したデータからまだ分かることがあるかもしれないと思うとワクワクしますね。

他の方の発表や公開シンポジウムでは、研究の内容はもちろん発表の仕方も個人の性格が反映されていて大変興味深かったです。特にニワトリの研究発表には大変心惹かれ、卒業論文のテーマを決心するに至りました。ポスター発表や優秀発表者の場では、鋭い意見や質問を言ったり、学会員同士仲が良さそうに盛り上がったりしていて、素敵な学会だと感じました。交流という大事な側面もあると感じ、時間はあっという間で短く感じました。

今回の大会への参加は楽しいもので私にとって大きな経験となりましたが、より良い表現の仕方があったのではないかと悔しい想いもあります。来年も大会に参加させていただくつもりですので、研究発表を楽しみにしています。そして、交流できることを望んでいます。また機会をいただければ、今回よりも少しでも皆さんの関心を惹けるような研究および発表をします。あとは質問するにしても知識や経験不足だなと感じました。頑張っって学んでいくので、可愛がっていただけたら有り難いです。

総会報告

松浦 晶央 (総務担当・北里大学)

統合後初めて対面形式で開催される研究発表会に合わせて、2022年9月に総会をハイブリッド形式(ハウスクエア横浜での対面形式およびZoomによるリモート形式)で開催しました。

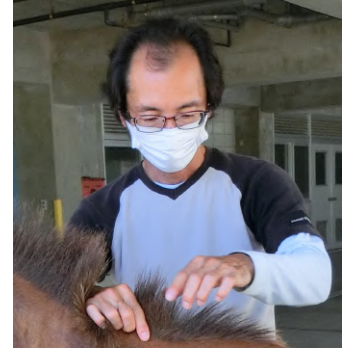
1) 2021年度活動報告については原案通り承認されました。

2) 2022年度事業計画(案)について

総務関係①役員会、総会の開催、②研究発表会、シンポジウムの開催については原案通り承認されました。③国際連携のうち、ISAE2022への参加助成と国際学会参加助成は、オンライン開催でも補助することとしました。④広報、学会誌編集、会計についても原案通り承認されました。

3) その他: 年度開始(3月1日)から総会開催時期(秋)までに期間が空く点について本年度は、年度開始直後の理事会で事業計画と予算を承認し、事業を進めましたが、総会による承認は秋の学会開催時となりました。今後とも同様のケースで学会運営が進むことが想定されますが、本年度と同様の形式で進めることとして承認されました。

最後に、初めてのハイブリッド開催をご準備くださった大会担当理事の皆様と参加くださった会員の皆様にお礼申し上げます。



大会を終えて

加瀬 ちひろ (大会担当・麻布大学)

2019年から大会担当になってからというもの、新型コロナウイルス感染症のお陰で毎回、大会開催にあたり新たな取り組みをさせてもらっています。昨年の初めてのオンライン開催に続き、今年は初めてのハイブリット開催。ハイブリットだけはめんどくさいからやりたくない...と当初、大会担当同士で話していましたが、対面とオンラインのそれぞれの良いところ取りをすべく、最終的にはハイブリット開催となりました。通常、対面での開催ではどこかの大学を会場に選定するのですが、大学によってコロナ対応が異なり、感染状況の変化により急遽大学施設の利用ができなくなるリスクを避けるため、今回は一般の施設を利用しました。一般施設であれば、緊急事態宣言などが発令されなければ、利用不可にはならないからです。大会に向けて着々と準備を進めるものの、オンライン開催の時にはなかった表現

できない不安に襲われながら迎えた当日。トラブルが発生。プロジェクターの使用は別途料金がかかるの?! 会場に対して思ったよりスクリーンが小さい! プロジェクターをここに置くのなら、発表者の位置がこんなところに...延長コードギリギリ! と、ばたつく私。でも、なんとかなるなる〜とハイパーポジティブな新村さん(東京農工大)、でっかいどうな安定感の田辺さん(北海道総研酪農試験場)、アルバイト学生への確かな指示を出してくださる眼福なリングホーファーさん(帝京科学大)と共に、ハイブリット開催もなんとか最後まで終わることができました。前回の大会時も思いましたが、今回さらに、この大会担当メンバーで良かったなとしみじみ思いました。また、ポスター発表の学会HPへのアップにご尽力いただいた、広報理事の小倉さん(北里大)、アルバイト学生への支払い等について色々なご対応をいただいた会計理事の多田さん(農研機構北農研)など、たくさんの方のご協力により本大会を開催することができました。この場をお借りして、みなさまにお礼申し上げます。一方で、オンライン参加の方は、所々音声聞き取りにくかったようで大変申し訳ありませんでした。音圧の調整が非常に難しく、手作りでのハイブリット開催の限界を感じました。手作り感に好感を持ってくださる皆様の気持ちに救われつつも、来年こそは完全対面開催の復活を願っています。(次ページへ)



さて、今回の大会で対面を復活させた一番の理由は、「学生みなさんに対面での発表の場を設けたいという」学会役員の願いからです。私自身も、この学会で育てていただいたという思いから、ぜひ多くの学生さんに様々な方とたくさんディスカッションをして欲しいなと思っておりました。発表された学生さんにとって、さらに研究を充実・発展させる機会になっていれば嬉しく思います。個人的に嬉しかったのは、発表者された他大学の学生さんが大会後に声をかけてくれたことです。オキシトシンの分泌が高まったのか、親戚のおばさんのような気持ちになりました。また来年会った時には、「背伸びたねえ、学校楽しい？」と親戚のおばさんあるあるな声をかけるように「あれ今ドクターだっけ？研究どう？」と声をかけたいと思っています。来年こそは、懇親会も対面開催を実現したいですが、どのような形でも、みなさんにお会いできることを願っています。

ISAE2022 参加報告

山本 誉 (大阪大院人間科学)

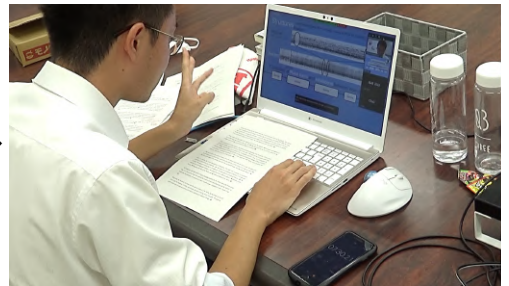
大阪大学の山本誉です。この度、2022年9月4日から8日にかけて北マケドニアのオフリドにて開催されましたISAE 2022 (国際応用動物行動学会第55回大会)にオンライン参加しましたので、報告させていただきます。まずは、本学会参加にあたり、参加助成していただいた動物の行動と管理学会の皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

初めての国際学会参加ということで、オンラインではありながらも非常に緊張しました。自分の英語は通じるのか？相手の英語が分からなかったらどうしよう？スライドショーは無事流れるのか？...などなど、懸念事項を挙げ始めたらキリがなく、発表直前まで研究室を一人ウロウロしていました。

今回は、2021年度に動物の行動と管理学会で発表させていただいた、ホッキョクグマのささ鳴きに関する研究を口頭発表しました。ZOOMの画面越しに会場の様子が映し出されるのですが、多くの方に試聴していただいていることが分かりました。40~50名ほどの聴衆がいたと思います。今年度のISAEは産業動物に関わる研究がほとんどで、展示動物に関わる研究に若干のアウェーを感じていたのですが、興味を持っていただける発表ができたと思います。

さて、肝心の発表について。本発表最大(?)の特徴として、ささ鳴きの音声を流すのですが、ZOOMの音声共有にトラブルが生じてしまい、昨年度の動物の行動と管理学会に引き続き、ささ鳴きモノマネを披露することに。モノマネが終わると進行役の先生から「ほまれくん！素敵なささ鳴きをありがとう！」みたいなことを言われ、会場が盛り上がりつつあるように感じました。予期せぬトラブルが逆に緊張を和らげ、質疑応答まで無事に乗り越えることができました。質疑に答えられたのは、自分でも評価してあげたいです。

会場の雰囲気としては、全員がノーマスクだったのが印象的でした。フロアにある椅子も間隔なしに置かれており、コロナ禍前の光景が広がっていました。他の方々の発表については、今後の参考にするため口頭発表を試聴しました。しかし、英語が早口で聞き取れず、ZOOMの字幕機能を駆使しても目が追いつかず、スライドの情報を頼りに類推するといった感じでした。海外の方々の発表スライドは良くも悪くも「オシャレ」でした。図やイラストが多用されており(イラストもポップ!)、視覚に訴えるようなスライドが多かった印象です。他に共通していると感じたのが色彩豊かな点です。中には一枚のスライドに5色以上使っているものもあり、結局どこを強調したいのだろう？と分からなくなることもしばしば。国際学会のように言語の壁がある場合は尚更、スライドはシンプルなものの方がいいのだなと感じました。一方で、プレゼンの最後に「テイクホームメッセージ」が明示されるなど、日本の学会ではあまり見かけないものもあり、今後活かせるような収穫もありました。来年はエストニアでの開催ですが、今回の経験を活かして発表できたらと思います。



編集後記

萩原 慎太郎 (福山市立動物園)

今回も、皆さまのご協力で発刊することができました。執筆いただいた方々の文章はとてもユーモアがあり、編集しながらクスッと笑ってしまうこともありました。さて、次回号の内容をどうしようかと悩んでおり、もし記事にして欲しい内容などありましたら、萩原 (hagiwara_s@animbehav-toki.com) までよろしくお願ひします。